

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-510	15-122	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol Abuse Increases Rebleeding Risk and Mortality in Patients with Non-variceal Upper Gastrointestinal Bleeding. アルコール乱用は非静脈瘤性上部消化管出血患者における再出血と死亡率を増加させる		
執筆者		
Kärkkäinen JM, Miilunpohja S, Rantanen T, Koskela JM, Jyrkkä J, Hartikainen J, Paajanen H.		
掲載誌		
Dig Dis Sci (2015) 60:3707-3715 DOI 10.1007/s10620-015-3806-6		
キーワード		PMID
消化管出血、アルコール依存症、アルコール乱用、再出血、死亡率		2617705
要 旨		
<p>目的： 非静脈瘤性上部消化管出血（NVUGIV）患者において、アルコール乱用が、初回出血後 1 年間の再出血と死亡、および長期間の死亡を増加させるかを検討する。</p> <p>方法： 2009-2011 年にフィンランドのクオピオ大学病院を受診した、初発 NVUGIV 患者を対象とした。調査票と既往歴から対象者をアルコール乱用群と非乱用群に分類し、その後 1 年間の死亡率、再出血率をログランク検定で比較した。その後 2015 年まで追跡し、コックス比例ハザード分析を用いて両群の死亡率を検討した。</p> <p>結果： NVUGIV 患者（518 人）中、19.7%がアルコール乱用ありとされた。初回出血後 1 年間の再出血割合は、乱用群で 16.7%、非乱用群で 9.1%であった（$p=0.027$）。1 年間の再出血リスクはアルコール乱用者において約 2 倍で（$p=0.025$）、特に 6 ヶ月目以降で増加していた。初回出血後死亡は、30 日間で 6.0%、1 年間で 20.5%であり、いずれもアルコール乱用の有無で差は認めなかった。長期間死亡リスクは、有意差は認められなかったもののアルコール乱用群で 51%高い傾向がみられた（ハザード比 1.51、95%信頼区間 0.64-1.84）。</p> <p>結論： アルコール乱用のある NVUGIV 患者では、非乱用者に比べて再出血・死亡リスクが高かった。</p>		